介護予防・日常生活支援総合事業　　【資料1－1】

【R6 年度目標】 1. 通いの場の課題について整理、検討し、今後の事業展開について検討する。
2. 通所型サービスＣのより効果的な実施方法を検討するとともに、自立支援の考えを啓発していく。

<table>
<tr><th>事業名</th><th>R5 年度の実績</th><th>R6 年度の予定</th></tr>
<tr><td>みんなで笑おう☺
元気アップ教室</td><td>■みんなで笑おう☺元気アップ教室実施状況（R6年1月末時点）
<table>
<tr><th>令和5年度</th><th>村上</th><th>荒川</th><th>神林</th><th>朝日</th><th>山北</th></tr>
<tr><td>実施箇所
（お試し開催含む）</td><td>44か所</td><td>16か所</td><td>26か所</td><td>16か所</td><td>11か所</td></tr>
<tr><td>実施回数</td><td>536回</td><td>61回</td><td>215回</td><td>92回</td><td>75回</td></tr>
<tr><td>参加延人数</td><td>3905人</td><td>617人</td><td>1905人</td><td>921人</td><td>605人</td></tr>
</table></td><td>・新規開催場所を増やすため、未開催の町内・集落へ教室の周知を行う。</td></tr>
<tr><td>水中運動教室</td><td>・実施回数：18 回、参加者 12 名（うち新規 5 名）</td><td>・18 回実施予定
・教室の周知を行い、村上地区以外からの新規参加者を募る。
・継続参加できるよう支援していく。</td></tr>
<tr><td>男前健康運動教室</td><td>・実施回数 20 回、参加者 18 名（うち新規 3 名）</td><td>・20 回実施予定
・教室の周知を行い、村上地区以外からの新規参加者を募る。</td></tr>
<tr><td>元気応援通所
サービスＣ</td><td>■元気応援通所サービスＣ実施状況
<table>
<tr><th>令和5年度</th><th>村上</th><th>荒川</th><th>神林</th><th>朝日</th><th>山北</th></tr>
<tr><td>実施回数</td><td>24回</td><td>16回</td><td>20回</td><td>24回</td><td>12回</td></tr>
<tr><td>参加実人数</td><td>12人</td><td>10人</td><td>7人</td><td>14人</td><td>9人</td></tr>
</table></td><td>・5 地区で実施
・各地区の実情に応じたより効果的な実施方法や内容を検討していく。</td></tr>
<tr><td>介護予防講演会</td><td>・9 月 10 日（日）、参加者 228 名
・テーマ「認知症ポジティブ！～認知症の予防と理解、ともに生きる地域に向かって～」</td><td>・医療フォーラムでの保健医療課と合同開催を検討中。</td></tr>
<tr><td>介護予防把握訪問</td><td>・各地区 65 歳未満と同居世帯の高齢者へ看護師が訪問し生活状況と基本チェックリストを聴取。
・訪問実施人数：153 名</td><td>・コロナ禍後の高齢者の現状について把握していく。
・R5 年度訪問の分析を行う。</td></tr>
<tr><td>地域リハビリテーション活動支援事業</td><td>■実施状況
<table>
<tr><td>在宅リハビリ指導</td><td>申込件数13件（2件中止）、実施件数9件（3月1日現在2件未実施）</td></tr>
<tr><td>介護事業所個別指導</td><td>6事業所で実施（グループホーム4か所、デイサービス2か所）</td></tr>
<tr><td>リハビリ講習会</td><td>テーマ：「嚥下の仕組みと摂食嚥下障害との関わり方を学ぶ」実践セミナー
参加者21名（デイサービス、グループホーム、訪問介護・看護、介護支援専門員）</td></tr>
</table></td><td>・リハビリテーション専門職と協働し、通所、訪問、通いの場等で地域の実情に合わせた介護予防の取組みを検討していく。</td></tr>
</table>

【令和 6 年度の取組み】

・コロナ禍後の高齢者の現状について引き続き、把握していくとともに、活動量が低下することで心身の機能が低下し、フレイルや要介護リスクが高まることを啓発していく。

・元気アップ教室は制限なく実施したが、各町内・集落により実施状況に差がある。現在の課題の整理と他事業との関連性を踏まえ、今後の事業展開を検討していく。

・通所型サービス C 事業のより効果的な実施方法を検討し、各地区の実情に応じた、内容の見直しを検討していく。また自立支援の考えを啓発していく。